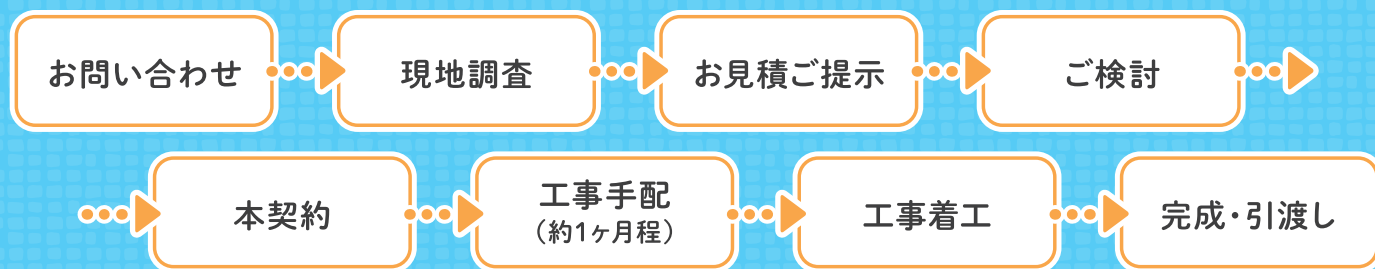


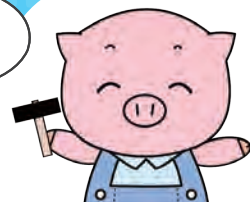
リフォームの流れ

リフォームで解決したいお悩みやご要望をご相談ください！
最適な解決策をお客さまのご希望や将来のことも考えてご提案いたします。



よくあるご質問

無理な営業は
いたしません！



Q. 断熱材にアスベストは含まれていますか？

A. 断熱材(グラスウール)は人造鉱物繊維であり、天然繊維であるアスベストとは別物です。原料にもアスベストは一切使用されていません。

Q. 断熱材を全体に入れないデメリットはありますか？

A. 一般的には室内の温度が外気温の影響を受け、快適な環境を保つことが難しくなると言われています。間取りによっては効果を感じられない場合があったり、部分施工が難しい場合もあります。お客さまそれぞれに適したプラン設計によって、ある程度のデメリットは回避できますので、まずご相談ください。

Q. 費用や負担を抑えた部分断熱でも十分な効果は得られますか？

A. 適切な改修方針のもと、改修工事を行えば可能です。要となる方針を、お客さまのお悩みや住宅の状態によって、ご提案させていただきます。



住まいる REIWA について

弊社は、お家のリノベーションやリフォーム事業、店舗デザインや外壁塗装リフォームなど、お家に関する業務に幅広く携わる会社です。お家を様々な方法でよみがえらせてきた弊社が行う断熱リフォームは、確かな技術を持った職人が心を込めて施工いたします。

お客さまの大切な「持ち家」という資産は、わたしたちが建築のプロとして責任を持ってお守りします。社員一同、お客さまと一緒により良いお家づくりをさせていただけることを、楽しみにしております。



customer@reiwa-corporation.cc

お問合せ 044-872-8539



株式会社 令和コーポレーション 神奈川県川崎市宮前区西野川2丁目22-12-302
当社ホームページ www.reiwa-corporation.tokyo

お問合せQRコード
携帯から簡単に直接
お問合せできます

illustrations by Yuki Hazumi

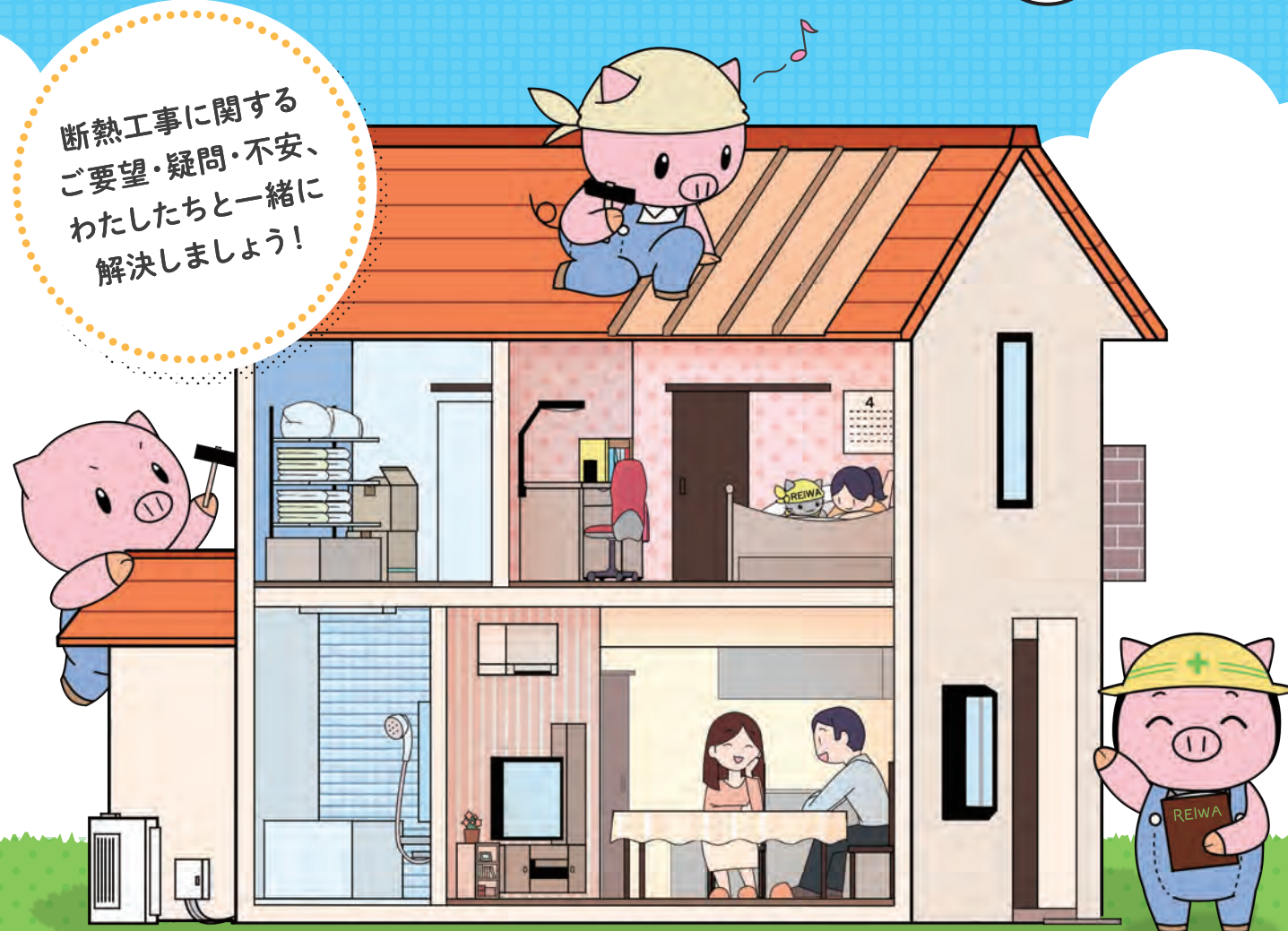


住まいる
REIWA

断熱工事をお考えのみならず

部分断熱BOOK

断熱工事に関する
ご要望・疑問・不安、
わたしたちと一緒に
解決しましょう！



ご存知ですか？

2025年
4月

断熱に関する法改正が施行されました！

それにより、新築の建物に対しては断熱等級4が義務化されることになりました。

リフォームは
どうなるの？

コストは
どれくらい？

おすすめの
施工は？

リフォームの
流れは？

わからないことや不安に思っていることを、私達にご相談ください！
あなたに必要な断熱の方法と一緒に考えましょう！

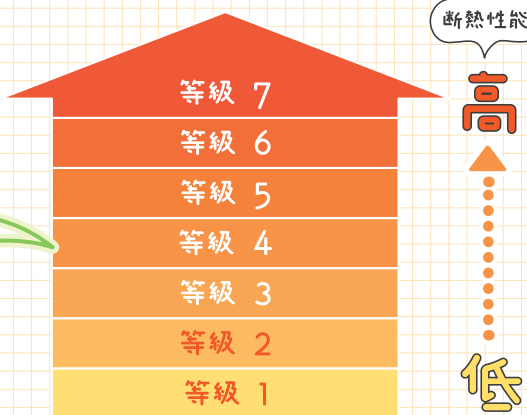
断熱等級とは？

断熱等級は1～7段階あります。これは住宅の断熱性能や省エネ性能に関する指標で、断熱材の使用状況や構造によって評価されます。
※情報はすべて2025年4月現在の基準です。

新築の場合、これが義務化！

「良好な省エネ基準」は断熱等級4以上。
高いエネルギー効率、光熱費削減や室内温度が安定しやすいといわれています。

【断熱性能等級】



しかし

断熱等級4まで上げるにはハードルが...

コスト

費用はなるべく抑えたい！



断熱性を上げるには、高性能の断熱材を使うことが必要に。コストも当然、高くなってしまいます。

知識

工事の規模がわからない...



法改正もあり、知識がないと業者に言われるまま、必要のない施工まで発生してしまう危険が...

信頼

適切な断熱を相談したい



お客さまのご都合に沿った、プロならではの提案ができる、かつ確かな技術のある業者選びが大切です。



住まいるREIWAなら解決のお手伝いができます！

解決策は、大規模な工事や高価な断熱材の使用だけに限りません。工事の規模や施工内容にもよりますが、費用を大幅に抑えられることも！住宅の状況や、お客さまのご都合はそれぞれ。断熱性能を複合的に対策する、オーダーメイドの提案をさせていただきます！

そもそも断熱等級4って必要なの？

実はリフォームの場合、建築確認※が不要な工事であれば、断熱等級4を満たす義務はないのです。

つまり、大規模な工事をせず手軽にできる改修を選べば、費用をおさえながらも効率的に断熱効果を向上させることが可能なのです！

※建築確認とは、建築物の安全性などを確保するために、行政または民間の確認検査機関による審査や検査を受けることです。

ういた費用で、あきらめていたあのリフォームもできるかも！



あなたが解消したい断熱のお悩み



- 例えば1 等級4以上の断熱、高額な断熱材を勧められ、予算が合わない
- 例えば2 大規模な工事をするつもりはなく、なるべく短期で終わらせたい
- 例えば3 使っていない部屋があるが、そこにも工事が必要かわからない
- 例えば4 リビングや寝室の窓際などの肌寒さを改善したい
- 例えば5 年中エアコンをつけっぱなしで、体調も電気代も心配
- 例えば6 数年後には住み替えを検討している
- 例えば7 断熱だけでなく、住まいのリフォームについていろいろ相談したい

一般的に提案される断熱工事 (断熱等級4相当)

【2階建て住宅の場合】



- 住宅面積：129m²
- 築年数：40年
- 種類：木造
- 工期：2020年12月

壁・天井・床に、熱貫流率※1が0.87(W/m²・K)以下の断熱材を使用※2

※1 室内から外気への熱の流れる割合 ※2 国の基準値

条件が合えば、これも良いけど...

- 壁……アクリアネクスト 14K 厚90mm
- 床……アクリアリボードビンスS 20K 厚90mm
- 天井……アクリアマット 20K 厚155mm
- 窓……内窓 LIXIL インプラス または断熱サッシ(カバー工法)を使用



それなら

「部分断熱」をご検討ください！

日常的に使用する生活空間を優先した断熱改修を実施しましょう！

部分断熱とは？

リフォームで快適な生活を実現する、高価な断熱材や等級だけにこだわらない断熱方法です。

「部分断熱」のメリット

- ① 費用を抑えられる！
必要な部屋だけ等級4と同レベルの快適さに。費用を抑えた分、他のリフォームに充てられます！
- ② 小規模工事で負担減！
小規模・短期間の改修工事で、職人の出入りも最小限。「仮住まい」が不要になる場合もあります！
- ③ うれしい省エネ効果！
冷暖房のランニングコストを抑えられます！

主な「部分断熱」方法

例えばこんな方法があります！

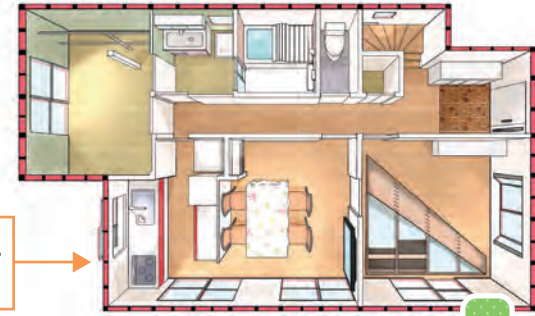
- ① 二重窓にする
- ② 断熱材と二重窓を組み合わせる
- ③ 床
- ④ 壁・天井
- ⑤ シーリングファン
- ⑥ 日よけシェード

くわい説明は次のページから！

「部分断熱」のイメージ

部分断熱は、日常でよく使う一定の区画だけに断熱改修を行う方法。費用を抑えたり工期を短くするなどのメリットがあります。

【断熱等級4以上を満たす断熱材を使用した場合】

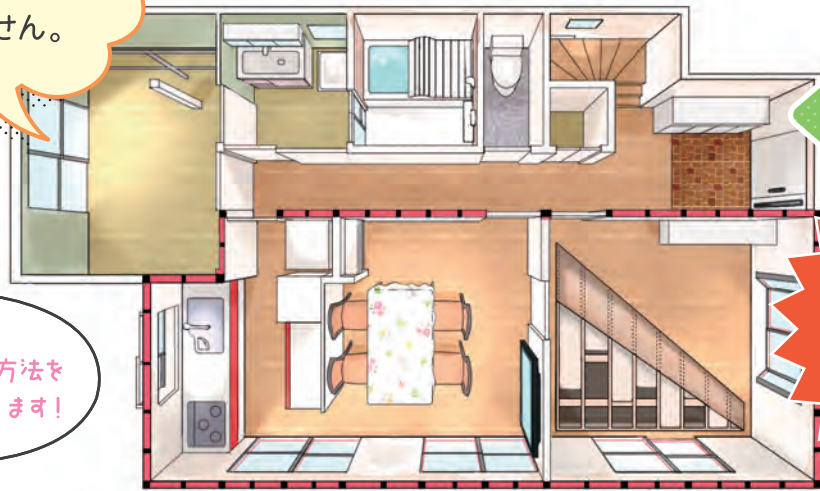


赤い箇所が、断熱材が入っている箇所。壁面全体に入っている状態です。

POINT

- ▶断熱すべき部分を見極めて、効果的な断熱を!
- ▶住宅の立地や使用状況に応じて、どの部分に断熱を施すかを計画的に選定!

使用頻度の低い部屋には断熱材を入れません。



断熱材の費用削減が可能!

ここからは
主な部分断熱の方法を
説明します!



1 二重窓にする

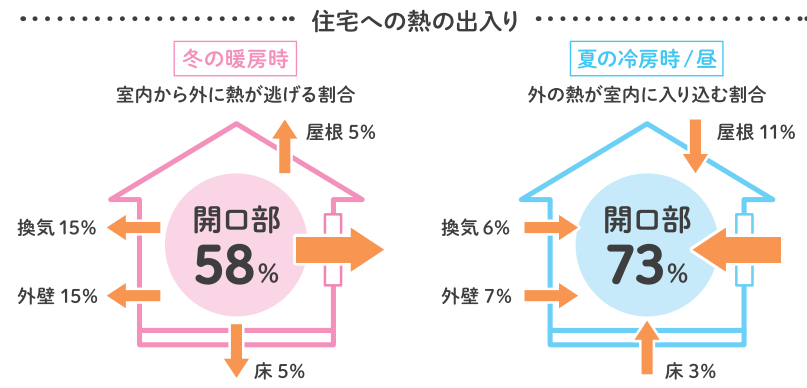
断熱効果 ★★★★★

費用 ★★★★★

窓(開口部)は住宅の熱損失の58%を占め、熱流出が最も多いです。二重窓は、既存の窓の内側にもう一つ窓を取り付けた形の窓。ガラスの断熱効果が二倍になるほか、内側と外側のガラスの間に空気層を持たせることで、断熱効果を高める方法です。

POINT

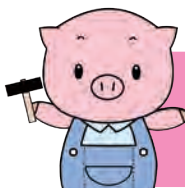
- ▶窓からの熱の逃げを大幅に減少できる!



※データ出典: (一社)日本建材・住宅設備産業協会 省エネルギー建材普及促進センター「省エネ建材で、快適な家、健康な家」

補助金制度

二重窓(内窓)の設置に関する補助金制度として、先進的リノベ2025事業が2025年も継続されています。この制度では、既存住宅の窓やドアを高断熱性能を持つものに改修する際の費用に対して、補助金が交付されます。



例えば

2 断熱材と二重窓を組み合わせる

断熱効果 ★★★★★

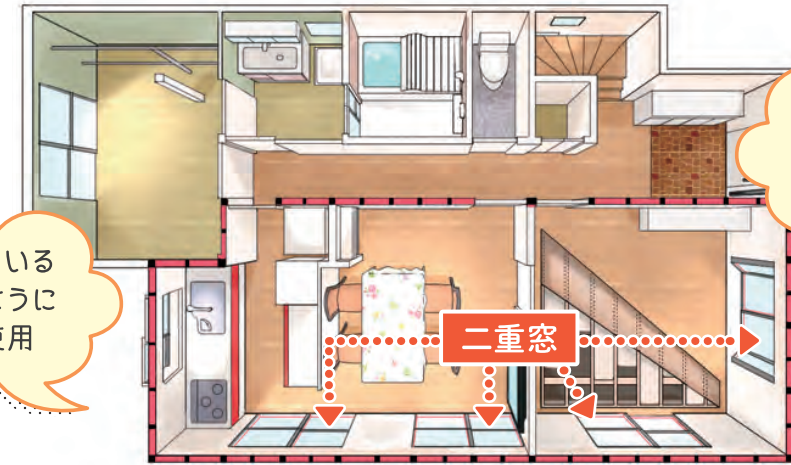
費用 ★★★★★

断熱材と二重窓は、どちらも省エネルギーや快適な住環境を提供するための効果的な方法です。部分的に断熱材を使用することでコストを抑えながら特定の部分で効果を発揮し、二重窓は特に窓からの熱損失を防ぐために有効です。

POINT

- ▶併用することで相乗効果を得て、全体のエネルギー効率を高めることができる!

【断熱材と二重窓を組み合わせたイメージ】



主に使用している部屋を囲むように断熱材を使用

窓を二重窓にして、断熱機能を向上させます

例えば

3 床 (床暖房・断熱材・遮熱シート)

断熱効果 ★★★★★

費用 ★★★★★

POINT

- ▶即効性のある快適さ、ムラのない温かさ、工事の手軽さ!
- ▶お部屋のデザイン性の保持とエネルギー効率の両立!
- ▶快適で経済的な住環境の実現!

床への主な施工はこの3つ

① 床暖房

足元から温まるので直接的に快適さを感じやすく、全体がムラなく暖かくなり熱が逃げにくいです。

② 断熱材

暖房を使用中でも足元が冷たいと感じる時におすすめ。断熱性能は素材や材料の厚みによって異なります。

③ 遮熱シート

床下に施工することで夏は室外からの熱を防ぎ、冬は熱を室内側に反射させ、部屋の温度を保ちます。



※施工イメージ

ご予算や住宅の状態によって最適な方法を選びましょう!



4 壁・天井 (断熱材・遮熱シート・断熱ドア)

断熱効果 ★★★★★※
費用 ★★★★★※
※鉄板屋根表層仕様の場合

- POINT ▶ 夏は涼しく、冬は暖かさをキープ!
▶ エネルギー効率もアップ!

壁・天井への主な施工はこの3つ

① 断熱材

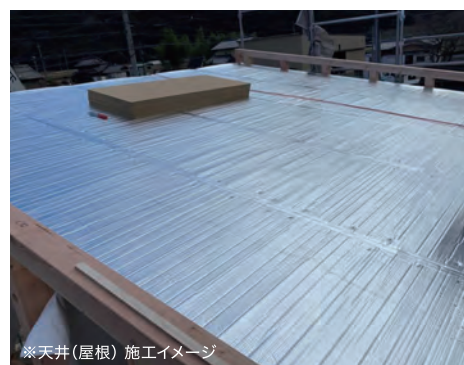
暖かい空気は上に逃げるので上からの寒さが気になる場合は天井への断熱材追加が効果的です。壁への断熱材は、室内に寒さが入ってくるのを防ぐ働きがあります。

② 遮熱シート

熱を反射して外からの熱を防ぎます。外壁に使用することで断熱効果を高めるメリットがあります。

③ 断熱ドア

窓と比べて意外と見落としがちな開口部は玄関ドアです。経年劣化したドアはわずかな隙間があいていることも多く冷気流入口の一つです。



5 シーリングファン

断熱効果 ★★★★★※
費用 ★★★★★※

断熱効果を高めるために、直接的な効果を持っているわけではありませんが、空気の循環を促進、エネルギー効率の向上など、間接的に快適さを向上させる手助けとなります。

- POINT ▶ 手軽な工事!
▶ 高いインテリア性!



6 日除けシェード

断熱効果 ★★★★★※
費用 ★★★★★※

シェードは、窓の断熱材としての補助的な役割を果たします。夏の日差しを遮り、室内の冷房効果を上げることができます。

- POINT ▶ 手軽な工事!
▶ 日焼け対策、目隠しにもなる!



部分断熱 施工例のご紹介



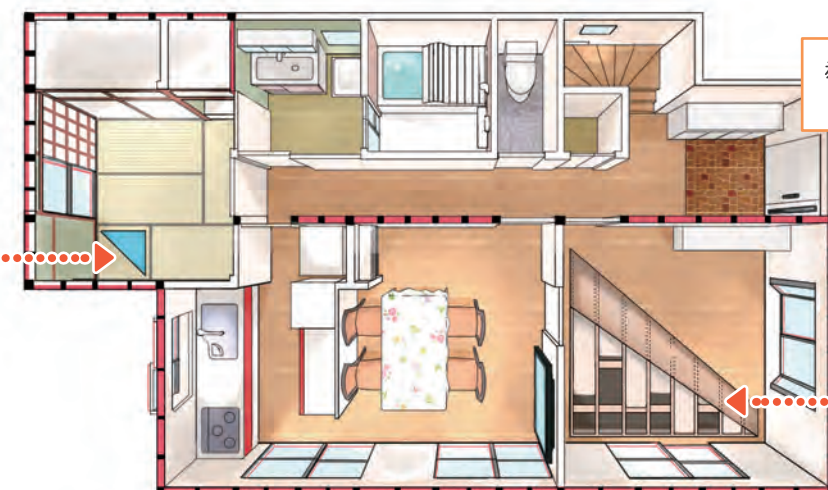
Case 1

50代夫婦
2人暮らし

改修のご提案

- ▶ お子様の独立後、コンパクトな暮らしをご要望のため、1階の改修をご提案
- ▶ 和室の使用頻度は日常的には低いが、お子様やお孫様が訪れた際の客間として使えるよう、快適性向上のため改修をご提案
- ▶ 2階の寝室も使うが、活動時間の快適性を重視して1階のみ改修をご提案

スタイロ畳



- POINT ▶ 和室はスタイロ畳(断熱材入りの畳)に変更することで使用感そのままに

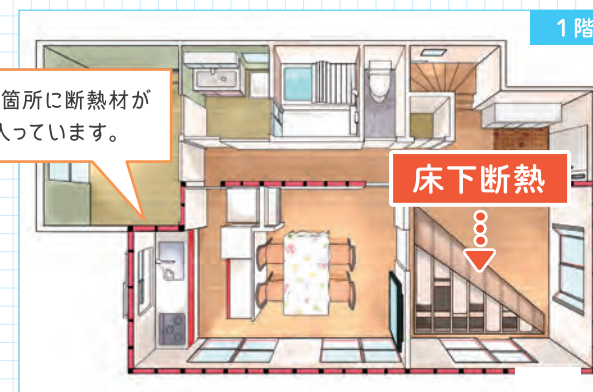
Case 2

70代夫婦
2人暮らし

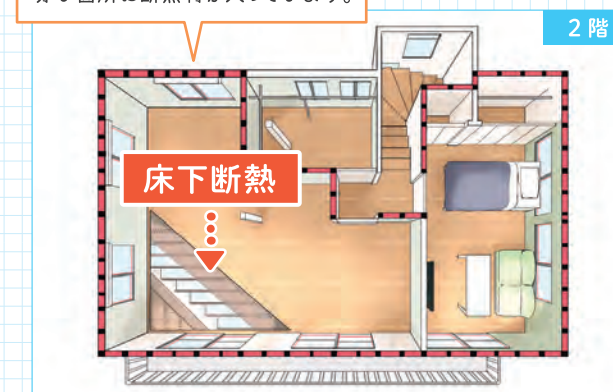
改修のご提案

- ▶ ご高齢になり、階段の使用が困難になったとのご相談を受け、1階の居室周りの改修をご提案
- ▶ 将来的にご子息夫婦との同居をご検討のため、2階の改修をご提案

赤い箇所には断熱材が入っています。



赤い箇所には断熱材が入っています。



- POINT ▶ 1階居室周りの断熱性のみならず、2階の快適性も将来に備えてしっかりUP!